

平成31年度 シラバス

教科名	数学		科目名	数学 B		
履修学年	第2学年		類型等	理型・文Ⅰ・文Ⅱ		
単位数	2単位	使用教材	教科書:数学B-改訂版-(啓林館) 副教材:エスコート数学Ⅱ+B(啓林館),フォーカスゼータⅡ+B(啓林館)			
科目目標	数列, ベクトルについて理解し, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし, それらを活用する態度・力を身に着ける。					
学習への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「勉強する→分かる→面白い→勉強する」というサイクルを自分で作ること。</li> <li>そのために≪①分らないときはすぐ質問≫≪②わかる≠解ける≫の2点が大切。</li> <li>①分らない場合は, 必ず質問する。基礎的な学力がない状態で考え続けることは, 数学が嫌いになる原因である。②理解した上で解けるようになるまで, 演習を繰り返す</li> <li>・提出物は期限までに提出すること。また, 未提出者は居残りがある。</li> </ul>					
学期	時期	単元名		学習内容		
1	中間 調査 まで	第1章 数列 1. 等差数列と等比数列 1 数列とその項 2 等差数列 3 等比数列 2. いろいろな数列 1 和の記号 $\Sigma$		<ul style="list-style-type: none"> <li>・数列<math>\{a_n\}</math>について<math>n</math>と<math>a_n</math>との対応関係に着目し, 数列の一般項の意味を理解する。また, 等差数列と等比数列を理解し, それらの一般項を求めさらに第<math>n</math>項までの和を求める。</li> <li>・<math>\Sigma</math>記号を理解し, 利用する。</li> </ul>		
	期末 調査 まで	2 累乗の和 3 階差数列 4 数列の和と一般項 5 いろいろな数列の和 3. 数学的帰納法 1 漸化式 2 数学的帰納法		<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな数列について, 第<math>n</math>項までの和を求める過程を理解し, その和を求める。</li> <li>・隣接する2項間の関係に着目して, 数列を1次の形の漸化式で表現する。さらに, 漸化式の意味を理解し, 漸化式を用いて表された数列の一般項を導く。</li> <li>・数学的帰納法を用いて簡単な命題を証明し, その方法の意味を理解する。</li> </ul>		
2	中間 調査 まで	第2章 平面上のベクトル 1. ベクトルとその演算 1 ベクトル 2 ベクトルの和差実数倍 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積		<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面上のベクトルについて, その意味, 相等, 加法, 減法および実数倍について理解する。</li> <li>・ベクトルの内積の意味を理解し, 平面図形の性質の考察に内積を活用する。</li> </ul>		
	期末 調査 まで	2. ベクトルと平面図形 1 位置ベクトル 2 位置ベクトルと図形 3 ベクトル方程式 第3章 1. 空間のベクトル 1 空間の点の座標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・位置ベクトルを活用することによって図形に関する事柄について形式的な処理ができることを理解し, 平面図形の性質の考察に活用する。</li> <li>・空間座標の概念を導入し, その意味や表し方について理解する。</li> </ul>		
3	学年 末 調査 まで	2 空間のベクトル 4 空間のベクトルの内積 5 位置ベクトル		<ul style="list-style-type: none"> <li>・空間座標の概念を利用し, 内積や成分などの平面上のベクトルの考えを空間に拡張して空間ベクトルを理解する。</li> </ul>		
評価 方法	① 関心・意欲・態度 (20)点		② 数学的な見方や 考え方 (10)点		③ 表現・処理 (10)点	
	④ 知識・理解 (60)点		・提出物 20点		・小テスト 10点	
		・発表 10点		・定期考査 60点		